

願するの材となるべし、或は六歳の誕生日に於けるクリスマスの贈物もあるべし、中年に貯金を以て購へる『チャウサー詩集』もあるべし、故に眞の藏書家は其書を愛して其人格の一部を構成す、研究度に過ぎ心神を喪失せし憐むべきサウゼーを見よ、彼は日夜圖書館内を彷徨して時間を費し或は書籍を弄び之を枕として眠りたりといふにあらざるや。然らば如何なる書籍を藏すべきか此問に對しては此種の書を求めよ、彼の種の書を備へよといふが如き必要はなかるべし、即ち上來述べ來れる讀書藏書の精神を會得する時は、如何なる書を讀むべきか如何にして書籍を撰擇すべきかといふが如き岐路に迷ふ如きなかるべければなり、文學的良心とも稱すべき能力は早晩如何なる書籍を排斥すべきかに就き能く之を判斷するの時期に達するか故なり。

### 精粹を藏せば可なり

書籍には一時の際物あり、此種の書は書架を辱かしむるものなり、藏書と爲すに足らず、藝術は永久の生命を有するも、際物は、一時的なるを記憶せよ、書籍を撰擇するは其友を撰擇するが如くなれば可なり。

家庭圖書館を設けたる者は、世間に出版せらるゝ書籍の無數にて自己の購ひ得る者の少なさに失望する勿れ、エマーソン曰く『余は屢次ケムブリッジ圖書館を見舞ひたり、余は同圖書館に赴く毎に必ずや書籍中の粹は集めて吾か家の研究室に在りとの確信を新にするを常とせり、何となれば目錄を閲するの際、絶えず余の注意を引くは少數の代表的作家にして、總べて是れ悉く吾が家に藏するものなり、山の如く推積せる多數の書籍は此等の代表的作家の書籍を批評し説明し註釋し居



れるものゝみならずや」と。

倫敦バルマルガセット雑誌も其社説に於て同様の意見を發表せし事あり。曰く「普通の廣さの一室をも満たすにあらずして文學の粹は吾か室に在りと思惟せらるゝは愉快ならずや、チョーサーよりクーバーに到る迄英國詩人の全集は僅に一小書架にて足るなり」と家庭の圖書館に就ての注意は其裝置をして近づき易からしめ且つ清潔ならしむるにあり、一室に禁錮せられ容易に玆に入る能はざるか如きは其効用の一半を失ふ者なり、書籍は籠の鳥の如く留置するの要なし、否寧ろ韋編幾たびか絶ち光澤色褪せて手垢の印せるを賞しとす、硝子戸の本籍に收められんよりは開放せられたる書架の遙に優れるに若かず、家具のリンネルに包まれたるまゝ沈鬱なる室中に在るは人の喜ばざる所なるか如く、殊更に書卷の表紙を美にせるは嬉しからず。

### 圖書室は開放すべし

ポールドマンが之に關して語れる所に曰く「如何なる室を圖書室に擇ぶとも之を溫暖にして且つ風通りを善からしめよ、其位置は家の南側を宜しとす、此室中に置かるゝ器具は極めて簡單にせよ、何物の裝飾も書籍に如かず……書籍の所在は之を公開せよ、之を本箱に藏めて鍵を掛けるか如きは何人か之を讀み易からしむべき、書籍は隱匿する勿れ、見易からしめ手にし易からしめ、親しみ易からしめよ、斯くして始めて書籍も亦愉快なる友人たるの觀を呈すべし……贅澤なる表装の爲に金錢を投ずる勿れ、表装に投ずる金錢は更に有益なる書籍の購入に用ひよ、表装は單純なるものにて足れり、書籍は架上に固く密集せしむべからず互に緩かにして相支ふるか如く爲すべし。



し、立てられたる書籍の上に、横に平面に積重ねべからず、下積み of 書を害すればなり、此二大注意を等閑に附する事なくんば、書籍を取扱ふに際して表紙破れ綴り目の裂くるが如き事なかるべし」と。

### 書籍を優遇せよ

リカルド・ベリイ曰く「汚れたる手を以て書籍に觸るゝ勿れ」と、長く書籍を保存せんと欲せば、此一語を記憶せよ、書籍の容易に汚れ、忽ち書中に手垢を印する事なからんと欲せば、讀書に先ちて一度其手を洗滌するを要す、書架は毎日塵埃を拂ひ又絶えず新鮮なる空氣を供すべし、書籍は親愛なる友なり、吾人は常に之と交遊しつゝあり、其沈黙せる温良なる精神より如何に利益を受けつゝあるかに鑑みる時は、之を優遇して家庭に於ける第一の室を附與し、家族及訪問者をして適當なる尊

敬を拂はしむること、然るべき報酬といふべけれ。

最後に語らんとするは時々書籍を購入するに際し、稍浪費に失するの感ありとも之を顧みる勿らん事是れなり、斯かる容易ならぬ苦心を以て經營せらるゝ圖書室は、其初め果して計畫の成就すべきや否やを顧慮せし時期より、後年他の讀書家に繼承せしむるの日に至るまで、生涯を通じて吾人の愉快なる伴侶として存在するなり。

## 第十五章 公立圖書館

### 公立圖書館の勢力

近時到る處の都市に公立圖書館の設置ありて、何れも幾萬卷の書籍を藏し以て公衆の便宜を謀らざるはなし、斯かる圖書館は實に都市に



於ける智的生活の中樞となり高潔なる思想の普及に依り全市街の風教に影響する眞に多大にして其勢力感化は冥々裡に全國に傳播し學校教育に對抗して社會的教育の實果を收むべし。

此の如き圖書館を有する市街は未だ其設備なき都市に比して市民の精神的生活上大に其趣を異にするは當然なり諸方面の實際に徴するに同一國內にても圖書館を有する都市は智力上物質上最も旺盛なる勢力を振ひつゝあるが如し圖書館を以て大に社會の進歩に貢献せんとする大事業は米國の東北部諸州に於て極度まで發達し其數と勢力に於て決して寺院教會に劣らず圖書館の斯く迄に勢力を占むるに至りたるは蓋し米國東北諸州を以て其起源とし歷史上未だ曾て他に其類例を見ざるの盛況を示せり。

### 米國は歐洲に優れる讀書國

然れども世界に於ける最大圖書館は米國に在りといふにあらず同國の圖書館は其規模に於て書籍數に於て巴里國立圖書館若しくは倫敦圖書館と對抗する能はず歐洲にては多數の書籍は公立大圖書館若しくは私立の大圖書館に吸收せらるゝに反し米國にては圖書館の數甚だ多きか爲に書籍は普く四方に散布せらるゝもの即ち上記の結果を來せる原因にして米國は事實上に於て歐洲に優れる讀書國なりといふを妨げず吾人の親しく目撃したる一例を左に示さんに曾て紐育に於て塵芥車の一取者は堆積せる灰の中より破れ果てたる一書を引出し車體の動搖するも意に介する所なく熱心に之を讀み居たり吾人はかゝる讀書癖の維持せられん事さまで困難なるべきを思はず今や



殊に米國の如きは物質的の發達顯著にして市民の生活繁劇を極む然れども此渦中に在ればとて人多く新聞紙の外書を手にするの暇なく婦人は際物の小説の外には通讀すべき書籍なしと早斷するは謬れり、塵芥車の馭者の爲す所は明に之を反證して餘あり。

### 圖書撰擇の困難

公立圖書館は世上に於ける圖書館の最も善良なるものとして發達進歩せしめざるべからず此場合に於ける發達とは書籍の蒐集を意味し進歩とは此蒐集か智慮ある目的及び注意深き區別の下に存し完全なる淘汰撰擇を行ふの謂なるを記憶せよ凡そ書籍なるものは其始めて世に出づるの時より後日世に忘れんとするの時に至ても尙ほ多數讀者の性格を形成るべき重大なる任務を負ふものなるは今更改

めて辨ずるの要なし即ち新刊書籍の撰擇は圖書館に於て如何なる用を爲すべきやを吟味すべきは勿論なれど通例圖書館の書籍購買委員は書籍の最も新しきもの最も高價のもの若しくは撰擇に時間を要せざる書籍に意を専らにするの風あり是れ果して書籍撰擇の良法なるか此風は一個人に於ても然り大に反省を要すべき事項なるべし多數讀者は定價の高きと世評の嘖々たるに動かされ爲に希望を達する能はざるのみか甚しき弊害を受くるものあり撰擇の難は大に察せざるべからず。

### 書籍購入の方針

書籍の購入は必ずや一定不動の理由なかるべからず例へば一書あり單に一時の用に充つるに止まるも其理由明白ならば之を購入する



も可なり要は購買者の智慮に於て首肯し得べき者ならざるべからず、適當の理由を有し必要に迫られたる五十卷の書は無意味なる五百冊にも勝ればなり、書籍購入に際し吾人は何故に其理由を見出し之が爲に時間を費さざるべからざるかといへば書籍をして人間處世上の指導者たり案内者たる任務を全からしめんを欲するが故に在り。

公立圖書館に於ける書籍の選擇は用意周到なるを要すべき事は勿論なるが社會には多様の趣味存在する事實も記憶し奮て其趣味を高からしむるの覺悟なかるべからず、之に關して一學者の說に曰く

- (一) 圖書館には不良なる書籍を藏すべからず
- (二) 右の範圍内に於て公衆の要求する書籍を具備せざるべからず
- (三) 公衆をして更に善良の書を希求せしむるやう指導せざるべからず

からず

圖書館の内容を形成する書籍の選擇に關して、確乎たる目的あらば、其勢力は自然に圖書館を支配し、從て特殊の効果を收むるを得べし、例へば或種の事業を試むるには、斯く々々の書を必要とする時期あるを注意するが如く、かくして遠き將來と現今の狀勢とを商量し、新しき必要と義務とは、常に新時代に伴ひ來るものなるを記憶して、圖書館を整理し訓練せば、希くば公立圖書館として完全の域に達するを得んか。

### 圖書館は墳墓にあらず

斯く圖書館を發達せしむるに當り無用の書籍を排除するは極めて必要なり、思ふに人生事に處して誤謬多きは世の常なり、時に或は其爲す所愚者にだも如かざるが如き例に富めり、獨り書籍の蒐集に於ての



み然るにはあらず、蓋し其内容不良にして一讀に價せざる書籍は猶ほ足に合はずして引き裂かれたる靴の如く、此種の書は世人の注目する所とならざるも、有害なるものに至りてはペスト菌の如くコレラ病菌の如く直に火中に投じて燒盡するの必要ある者あり、或は何の用をも爲さず僅に屑屋の有に歸して製紙場に送付せらるゝ者あり、或は甲には左迄有用の書として見られざるも、乙に取りては驚歎の材たる程に特種の價値を發揮する場合もあり、或は之を賣却し若しくは交換して新書籍に接するを可とするもあり、書籍の種類は實に此の如く多々なり、故に圖書館をして有用の程度を増さしめ潑瀾たる生活力の源泉たらしむるは、一に圖書館經營者の眼識如何に在り、圖書館は學問上有用なる書籍の寶庫にして墳墓にあらず、故に常に生命を有して時勢の變遷に應じ發達せしむべき不斷の注意と確乎たる目的とを以て進行する覺悟なかるべからず。

### 書籍の整理と開放

大小公私の圖書館に於て其所藏の書籍を最も有用ならしむる秘訣は之をして讀者に近づき易からしむるに存す、讀者の手に觸れずんば何の目的をも達せざるなり、書籍と接近して親交あるが如く感ずるは書を讀んで便宜を得たる人士にのみ感ずる經驗なり、固より或る程度の制限は必要ならんも、書籍を涉獵するの利益は書卷に接近するの容易なるに正比例す、此原則を提げて讀者に臨み其便宜を圖らん事を力めて後始めて書籍の配置は整然として宜しきを得べきなり。

公立圖書館に於ては書籍の分類を整頓し置く事最必要なり、若此用意なくんば圖書館は雜然たる書庫と化し讀者は偶然手にせる書籍を



見て始めて其内容如何を判断するの外なく、五里霧中に彷徨するの感なきを得ざるべし、同じく分類して、目録を編成するも、其方法巧みなれば、巧みなる程、讀者は容易に、目的の書籍を發見し得らるべし。

### 圖書館室内の裝置

大なる公立圖書館には室内の空席を完全に利用する方法を採用するを常則となす、書籍を横列に書架に積み上ぐるの裝置は、徒らに廣き面積を要するが故に、今は之を使用するものなし、されど室に就て左迄の必要を感ぜざる小圖書室には、壁と直角に書架を据付け之に書籍を陳列し、讀者の手が届くに便ならしむれば足れり。

何れの場合に於ても、其建築は鞏固にして、濕氣なく、室内は空氣と光線の流通を自在ならしむべし、架上の書籍は、一列に限り、之が分類は觀

覽に便なるを旨とすべし、亂雜を避くる必要あるが故に、餘りに細密煩瑣に失すべからず、圖書館は讀者の爲に存す、圖書館の爲に讀者あるにあらざればなり。

### 圖書館の目的

圖書館に於ける圖書取扱規則は決して些細の點に涉る勿れ、主たる目的は、書籍をして最も有効に用ひしむるにあればなり、書籍の保存及普通の取扱も此目的に背かざる範圍に於て規定するを可とす、書籍は神佛にあらず、託宣にもあらず、徒に書籍の取扱を煩瑣にし、規律を嚴にするは本來書籍蒐集の目的に反す。

圖書館は珍奇品の展覽會場にあらずして、一種の活ける社會的學校なり、書籍に依りては、僅に學究の伴侶たるを以て其職責を滿たすもあ



り、古文書の如く到底一般の利用する所となる能はず、轉々之を動かせば忽ち破碎する虞あるものあり、古代法律書の如き少數の専門家に必要なるのみにして其用途極めて稀れなり、然れども各地方に於ける多數の圖書館は此の如くなるにあらず、眼目とする所は、最大多數の最大利益にして區々特別の珍書の爲に多くの金錢を費し、多くの手數と多くの面積を要するが如きは決して圖書館當事者の喜ぶべき所にあらず、のみならず讀者も亦多くはかゝる必要を感ぜざるなり。

### 米國圖書館の現状

米國の公立圖書館に於ては近年社會一般公衆の趣味を發達せしむる上に於て著るじき進歩を見たり、思ふに大圖書館にては今より二十五年前に比して諸般の設備數倍に擴張せざるはなかるべく、是れ圖書

館の事務に鞅掌する人々の經營宜しきを得たるに起因せるなり、殊に圖書館の管理者は決して圖書館の役員たるを以て甘んぜず、彼の高等専門學校の名譽あり、勢力ある教授の如き職責と勤勞とを以て讀者に臨まんとするに至れる事は、大に注意すべき價あり、故に彼等は書籍の最も有益なる目錄及び表を作成し之れを讀者の必要に充つ、若し讀者よりの質問ありたる時は充分懇切に之れに答へて毫も倦色なきのみならず、かゝる質問を獎勵し、誘引し以て一般公衆の趣味を刺戟せんことを勉む、又常に揭示を出し、或る讀者の必然提出すべき要素を豫期し、或は圖書館の藏書に關して諸般の報告を爲す、斯くて一般公衆の必要と嗜好との變化せんとする機先を制しつゝ、讀書癖あるもの、満足を買ひ、其習慣を發達せしめ、以て一般公衆の趣味を高からしむるに力む、又新刊書目錄は常に最新のものを備へ置き、中にも重要なるものは簡



單明瞭なる説明を附し、閱覽の便に供すべし、之と同時に現代の顯著なる政治上文學上の事件は迅速に之が要領を報道し、又之が説明を求むるものには自由に於て獎勵的の談話を爲すが如くし、殊に印刷せられたる目錄の用ひ方及び解題帳の讀み方に就ては特に注意して指示す所あるを要す。

以上述ぶるが如き要件は圖書館の大小に拘はらず何れに於ても必ずや之が注意を要すべきものなり、凡そ知力的の補助や刺戟的の獎勵なきものは其進歩は或る程度に制限せられ、其以上超出する事能はざればなり。

### 公立圖書館の貢獻如何

公立圖書館の事業は智慮あり見識あり加ふるに監督者及び其閱覽

者が多大の興味を有するに由りて決定せらる宛然是れ一種の共和政治の如く、之れに關係するもの、熱心努力ありて始めて盛況を呈するに至るべきなり。

アントニーアブソリュート曰く「市内に於ける小圖書館は不良なる智識の淵藪なりといふものあれど是れ今人の觀念と一致せず否々圖書館は例へば松明の如し我が胸中に在る豆の如き微光も其火焰に觸れて始めて炎々として燃ゆるに至るが如き感あり、現に余の經驗する處に據るも余は高等専門學校よりも圖書館に於て學べる所更に多きを公言せんとす、當時圖書館は僅に四千餘卷を藏するに過ぎざりしも余の學問上の起點として裨益する所多かりしは事實なり、公立圖書館の偉大なる貢獻に二あり

#### (一) 書籍愛讀者の爲に好箇の修養場たる事



## (二) 人の趣味能力を發達せしむる事

自然は遅々として進めども一刻も息む事なし、人生亦然り、決して一躍急進する能はず、少壯時代に於て修養せる智能を活用し、歩一步着々と進むの外なし、動もすれば一朝にして學問の堂奥に入らんと試むるものあるも難事なり、當初は何人も繪入新聞雜誌類御伽噺小説傳記歴史等より入り以て漸次進歩し行かざるべからず、此進歩あればこそ、日刊新聞も亦利益あり雜誌も亦無用にあらずといふなれ」と。

エトワード・フリーマンは曰く「歴史は過去の政治なり、政治は現在の歴史なり、歴史の後に始めて眞の藝術文學は來る、彼の詩及散文に表はるゝものは是なり、人生の二大幸福は倫理と藝術との存在にして、藝術中文學を以て最廣範圍に利益あるものと爲す」と、此一語を味はふも人生の意義の一斑を窺ふに足る、ホレーヌ・グリーケも亦曰く「余は座右に三

冊の書あれば足る、字典、地圖、及百科全書是れなり」と、此三者は多様の形式を以て公立圖書館に備へられ、漸次人の注意を牽き、其讀者を誘うて物質界より理想界に入らしむ、理想界の生活を説明する書籍は自然の美を歌へる詩及散文にして、人をして時と空間との外目見る能はず耳聽く能はざるの境に逍進せしむるものなり。

## 智的生活の中心

圖書館は實に智的生活の中心なり、利益を收むべき捷徑なり、故に何れの公立學校とも絶えず親密ある關係を有せざるべからず、即ち學校教師は子弟を教育するに當り、圖書館の補助を得て之を導き、時代の思潮に後れざるの用意を爲し置かざるべからず、學生をして先づ讀書の必要を自覺せしめよ、之に亞ぐは大家の文章中より模範を求めて文を



屬するを學ばしむるに在り、斯くて讀書の標準を高むる事に注意せしめ、大家の傑作を讀ましめば、鋭敏なる兒童は本能的に之を愛讀するに至るべし、書籍愛讀の習慣は少年時代に於て始めて涵養すべく、後年に至りては容易に形作る能はざるものなるを記憶せんと要す。

圖書館は吾人の需要に應じて一日も其職責を空しうせざらんと欲せば、間斷なく之を利用するに如かず、英國の一文士曾て歎じて曰く「余の最も嫉まじき事は余が一冊の書を讀むの間に他人は更に有益の書を讀める事是なり」と、此心掛けありて始めて學問に進境あるべし、讀書家ともあるべき者は常に同文士の心掛けを以て心掛けとなし、茫然たる雜書中より性格の一部を形作るに足るべきものを撰擇し、之を精讀し、以て之を同化する事に力めざるべからず、あらゆる文學は之を三種に別つ事を得、第一有益の書、第二稍々佳とす

べき書、第三有害の書なり、第一は價值あり必ずや通讀すべきもの、第二は有るも可無きも可第三に至りては斷じて之を排斥すべきものなり、吾人はシセロの言ひたる如く「日夜共に之を携帶し、假令絶海の孤島に在るも好伴侶として身を離さざる如き書籍」を手にするを要するなり。

### 近時圖書館の進歩

米國議會附屬圖書館員ブットナム曰く「近年圖書館の進歩は一般社會の進歩に伴へるものなり、換言すれば一般社會の注意が此方面に集中し、熱心の極誘發して茲に至りたるに外ならず、されど又一方圖書館の側に於て銳意之が改良進歩を計畫したるの結果も亦與りて力あり、但し此改良進歩なるものは書籍蒐集の方法及び其閱讀の便宜等に於



て之を認むるなり、國立圖書館にても一般に其進歩は著るしき者あり、就中學問研究に資すべき材料愈々豊富となり文學の大に歡迎せらるゝに至れるが如き其主なる原因なるべく要するに各方面の態度大に熱心となり一般社會に於ける學問研究の大に進歩したるが故なり」と。

### 美はしき性格の訓練

フイリツプブルークス晩年に臨み新年の講壇にてポストン府の青年に向ひ「諸子の生涯をして意義あるものたらしめよ」と言ひ最後に「性格・性格」と叫びたる事あり、然り快活にして美しき性格を養成する事は、是れ即ち眞正なる藝術の目的にして文學の本領なり、書籍は人をして壽を長からしむるものなりと雖も、亦時に夭折せしむる作用を有す、は言へ嚴格なる意義に於て言ふ時は、其内容の一部分は人心を永劫不

滅の自然圈に導き、現世以外の靈域に逍遙せしむるものなるを忘るべからず。



## 第十六章 読書の主旨

## 読書は人格を高む

読書の目的は閑散無事の際娛樂として之を繙くより以上の或る意義を有する事勿論なり思ふに平生読書を娛樂視するの人のありては此眞精神の存する所を首肯せざる能はざるべし然らば読書の目的は智識を收め學術の蘊奥を極むといふに在るか曰く「否々更に大なり世に學術上の造詣深く智識亦凡ならざる人物にして宛然無學無修養の外觀を呈するものあるは畢竟読書上眞正の標準に則らざるが爲めなり即ち読書の本義とは他なし眞摯にして高潔なる人格を發達せしめ合せて書中の智識を利用し吾人をして現在の状態より進歩せる天地に進ましめんとするにあり。

読書は實に此の如き高遠なる目的を遂ぐるに供すべきものなりとせば不良の作家及び之が所作を喜ぶの讀者は全く之に與からざるなりポーター曰く「文學は縦し大に成功して賞讃を博したりとするも道徳上の眞理を重んぜざる文學は僅に一時代の文學として存在するのみ」と然り道徳的眞理に則れる文學は數世紀に亘りて生命を有し文明の進歩著るし懸隔を生ずるに拘はらず依然大作として尊重せられ社會の進歩に貢献しつゝあるにあらずや著作の生命長きは即ち是なりトーマスカライル曰く「人類の製作する所に係り之を地上に存せしめ得る物の中最も重大にして驚くべき價值あるものは書籍なり實にや思想を録して書籍なるものと爲すの術は奇すし哉オーディンの古字は此偉業の最初の形式にして降て書籍となりても尙ほ奇しき形を備へ最近のものとはなれり余過去時代の精神は收めて書籍の裡



に在り、人の肉體と物質とは夢の如く消え失せられたれど、過去の聲は明かに書籍の裡に聞かるゝなり、雄大なる艦隊も、軍隊も、港灣も、製鐵所も、大厦高樓を列ね、許多の機關を有する大市街も、縦し貴重なりとも、偉大なりとも、果して能く何事を爲し得たるか、アガメーンや多數の小アガメーンや、彼等の希臘は、其廢墟草の蒸すに任かせ、黙々としてあはれ深き光景を呈し居れるを見よ、唯希臘古書の存するあり、始めて希臘は文學的に讀者の眼中に復活し來る、嗚呼、書籍よりも奇すしき魔法何處に在る、人類の何事を考へ、何事を爲し得たるかは、總べて收めて書籍の裡に在り」と。

### 書籍は人類の生命也

アヂソンは、スペクテーター中に述べて曰く、「崇高なる神の創始的精

神の示されたるが如く、人類は其觀念を書籍の裡に表せり。近世の大發明の結果、此等の書籍は日月と其生命を同じうし、天壤と共に窮りなきに至れり……

人心の裡に起伏し、隱見する思想を表明するの術は、書籍以外に其方法なし、人の肉體は多くの物質と共に朽ち、精神は靈界に歸したるの後、其觀念を恒久のものたらしめんとするものは、書籍以外何ものもなし、故に書籍は偉大なる天才が人類に貽したる遺産にして、此貴重なる遺産は時代より時代へと傳へられ、吾人は又尙ほ未だ生れざる見曹への贈物にと用意しつゝあるなり」と。

ミルトンの有名なる「アレオバジチカ」出版自由論中に曰く、「書籍は死物にあらず、活潑々地たる情神の力なり、故に良書を殺すは猶ほ人間を殺すに同じ、人間を殺すは單に理性ある動物を害ふに過ぎざれど、書籍



を殺すは神の權化たる理性其の物を害ふものなり故に吾人は人の斯かる事業に従ふものに對し何等かの迫害を加へ居らざるや若しくは書中に湛へられたる生命を害ひつゝあるにあらざるやに留意せざるべからず吾人は時として斯かる際の殺人犯を見るのみならず殉死者をも見たり即ち此等の虐殺の一種は物質的生命を殺すに止まらず更に進んで精神を殺し理性の呼吸を閉塞するものにて生命よりも寧ろ「無窮」を害ふものなりとの印象を一般社會に傳播せしむるものなり」と。

### 書籍は恩惠也果實也

リチャードバックスター曰く「神は奴僕たる民衆をして其卓越にして神聖なる「記載」を爲すを得しめ以て此土地と時代とに偉大なる祝福

を垂れ給へり此故に良師なき者も書籍の力に依りて其目的地に進むを得人は皆此等の偉大なる恩惠を謝しつゝ同時に之を利用し讀書に努むる事を怠るべからず蓋し讀書は教師の口授を耳にするよりも尙ほ智識を得るに便なり何となれば自由に自ら問題を撰び自ら卓出せる書籍を繙くを得以て之を反覆し忘却せるを復習し須臾にして其心裡に固着し動かすべからざるものたらしむべければなり此の如くにして始めて始めて讀書が其心臓を鼓動せしめ感觸を深からしむるに至らん是れ耳より入る智識の企て及ぶ所にあらず」と。

コールリツヂは曰く「卓越せる傑作は精選せられ培養せられたる果樹の如しといはゞ眞理に近かるべきを覺ゆ即ち其果樹は單に一時代のものにあらず吾人は年々歳々之を栽培し適當の時期を経て天分の滋養と満足とを收むる事を得るなり」と。



## 世界教訓家の批評一般

フリーマンクラークは曰く『書籍に關しては吾人をして上帝に感謝せしめよ、吾人が或る書籍は世間に如何に貢獻せしや、現に如何に有用となり居れるや、吾人の希望に副ふ所何れに在りやを回想一番する時は、吾人の勇氣と信仰とは醒覺して疼痛は癒せられ、艱難にして冷酷なる家庭に在るものは、之に依りて理想的生命を附與せられ、遠く隔絶せる時代と外部とを聯想し、美の新世界を建造し、天上よりは、眞理なるものを下し玉はるべし、吾人は此等の賜に永久の感謝を拂ひつゝ、之を濫用せざる事に力めざるべからず』と。

ジョン、リ、の愛兒に與へたる一書中に曰く『善良なる吾か兒よ、卿は予の死に依りて財産を相續し、予の訓誡に依りて智識を收め得べし、

予の希ふて已まざる所は卿の心裡に或る者を刻み得るを悦ぶ事財囊に金錢を收め得たるに劣らざらん事之なり、富貴は運命の贈物なり、智能は神の恩惠なり、卿の財囊よりも卿の書籍に心を勞せよ、金錢よりは神意に従はん事を期せよ、放逸にして生きんよりは美しく死せよ』と。

エマーソン曰く『書籍は利用せらるれば、之が効用世に類なきものなれど、一朝濫用すれば最も有害不良の物と化す、然らば利用の道とは何ぞや、あらゆる方法の最終の目的とは何ぞや、即ち書籍をして吾人を砥勵せしむるのみ』と。

讀者は讀書の指針として往々古寺院の壁上に彫刻せられある左の一語を紙に記し肝に銘して忘れざらん事を要す。

『神の偉大なる光榮の爲めに』



# 最新讀書法終

明治三十九年九月廿四日印刷  
明治三十九年十月廿五日發行

最新讀書法與附

定價金四拾錢

翻譯者 實業之日本社

右代表者兼 發行 者 增田義一  
東京市京橋區南紺屋町十二番地

印刷者 青木弘  
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舍第一工場  
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地



發兌元

東京市京橋區南紺屋町十二番地(電話新橋八百七十四番)

實業之日本社

大賣捌所

東京堂、東海堂、北隆館、上田屋、良明堂、至誠堂、大阪盛文館、杉本書店、名古屋、川瀨代助



# 實業之日本社發行書目

高橋五郎先生新著(新刊)

**新處世觀**

◎◎◎大版全一册  
◎◎◎定價五拾六錢

大隈伯序三宅坪内有賀田中館諸博士追懷文

**天下の記者**

◎◎◎大版全一册  
◎◎◎定價五拾八錢

谷干城君題字 大石正己先生序  
中島氣嶸君新著

**禁酒禁煙の五年間**

◎◎◎大版全一册  
◎◎◎定價廿四錢

英國グランヅキル著 日本海嶽生譯

**神經健全法**

◎◎◎中版全一册  
◎◎◎定價廿四錢

山形香峰新著

**讀書便覽**

◎◎◎三六版全一册  
◎◎◎定價三拾四錢

江口岳東纂譯

**獨立自營**

◎◎◎中版全一册  
◎◎◎定價四拾六錢

實業大家 實驗教訓 法學博士高田早苗君先生序 蘆川忠雄君譯

**青年處世法**

◎◎◎大版全一册  
◎◎◎定價五拾八錢

萬朝報記者湯朝觀明君新著(新刊)

**冒險旅行**

◎◎◎定價廿四錢

少年志 報知新聞記者佐瀨醉梅君著

**當代之傑物**

◎◎◎上製金文字  
◎◎◎定價六拾錢

文學士久保天隨君新著

**實用作文法**

◎◎◎定價四拾五錢

實業之日本社譯

**最新讀書法**

◎◎◎定價四拾六錢

佐藤尚友君所著

**學生の前途**

◎◎◎定價卅五錢

蘆川忠雄君著

**心機轉換法**

◎◎◎定價卅四錢

農事試驗場淺井茂侃君新著

**最新農業經營**

◎◎◎定價四拾六錢

實業之日本記者岳淵生著

**新時代之青年**

◎◎◎定價四拾六錢

明治生命保險會社庶務課長物崎貞夫君新著

**生命保險提要**

◎◎◎定價五拾六錢

信州養蠶家宮入良右衛門君著

**經濟的育蠶法**

◎◎◎定價卅五錢

堀内新泉君新著

**母の書簡**

◎◎◎定價四拾六錢

娘に與へたる

蘆川忠雄君新著

**應對談話法**

◎◎◎定價卅四錢

土屋長君新著

**商業智囊**

◎◎◎定價卅四錢

鵜飼天淵君編著

**文章大成**

◎◎◎上製金文字  
◎◎◎定價四拾錢

鵜飼天淵君編著

**書信文大成**

◎◎◎上製金文字  
◎◎◎定價八拾錢

鵜飼天淵君編著

**婦人消息文**

◎◎◎定價五拾八錢

西谷龍顯君新著

**婦人の重寶**

◎◎◎定價五拾六錢

蘆川忠雄君著

**頭腦明快法**

◎◎◎定價廿四錢



法學博士 和田垣謙三 兩先生序 蘆川忠雄君著  
高橋 五郎

**人生の慰安**  
◎全一册大版  
◎正價五十八錢  
◎郵税八錢

島田三郎先生序 蘆川忠雄君著  
**常識の修養**  
◎大版全一册  
◎正價五十六錢  
◎郵税六錢

男爵 澁澤榮一先生序 蘆川忠雄君著  
**實務才幹訓練**  
◎大版全一册  
◎正價五十八錢  
◎郵税八錢

**人生の奮闘**  
◎大版全一册  
◎正價五十八錢  
◎郵税八錢

實業之日本社編輯局編纂  
**向上處世要訣**  
◎全一册大版  
◎正價四十六錢  
◎郵税六錢

米國敎訓家ライチング著 堀内新泉譯  
**不平慰安法**  
◎全一册大版  
◎正價三十五錢  
◎郵税五錢

實業之日本社編纂 (口繪寫真の家風)  
**富豪の家風**  
◎全一册大版  
◎正價五十六錢  
◎郵税六錢

中橋徳五郎君序 西村正雄君著  
**最新事務法**  
◎全一册大版  
◎正價六十四錢  
◎郵税四錢

法學博士 菊地武夫先生序 鶴飼天淵著  
**貧者の福音**  
◎中版全一册  
◎正價卅五錢  
◎郵税四錢

土屋長吉君著  
**商戰必勝**  
◎全一册中版  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

土屋長吉君著 (裝飾實例卅六頁)  
**店前裝飾術**  
◎全一册中版  
◎正價卅五錢  
◎郵税四錢

土屋長吉君著  
**商品と商業經營**  
◎全一册中版  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

米國實業界の泰斗 カーネギー翁新著  
早稲田大學講師 伊藤重次郎君譯  
**實業の鍵**  
◎大版全一册  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

報知新聞記者 西岡英夫君著  
**立身と繁昌**  
◎全一册大版  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

東方伯題字 大隈伯序 今井忠雄君著  
**滿洲案内**  
◎全一册大版  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

東亞の 大發庫  
**滿洲案内**  
◎全一册大版  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

△附録 滿洲渡航案内 滿洲旅行案内 滿洲地圖  
城陽 加藤政之助君新著 (朝鮮事業案内)  
**韓國經營**  
◎大版全一册  
◎正價四十六錢  
◎郵税六錢

△附録 韓國地圖。口繪寫真版十頁(風俗風景寫真卅餘個)  
城陽 加藤政之助君著  
**滿洲處分**  
◎大版全一册  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

在上海 前讀賣新聞記者 長谷川宇太治君著  
**渡清案内**  
◎全一册中版  
◎正價卅五錢  
◎郵税五錢

△附録 日清交通地圖△口繪寫真版四枚

實業之日本臨時增刊  
**新時代の生活**  
◎正價廿二錢  
◎郵税二錢

實業之日本臨時增刊  
**處世大觀**  
◎正價廿二錢  
◎郵税一錢五厘

米國自助的成功者ジョン、グラハム著  
實業之日本社翻譯  
**處世教訓**  
◎正價四拾錢  
◎特別五拾五錢  
◎上製五拾五錢  
◎郵税八錢

米國自助的成功者ジョン、グラハム著  
**英文處世教訓**  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

米國女學記者ヘエン氏著  
實業之日本社翻譯  
**女子處世訓**  
◎全一册大版  
◎正價卅五錢  
◎郵税六錢

永野耕造君著  
**商業修身訓**  
◎上中下三册  
◎正價四拾五錢  
◎郵税八錢



白 露 生著 (口繪十傑肖像插入)  
最近 成功十傑  
◎正價五拾錢  
◎郵稅六錢

實業之日本社編纂 (口繪肖像插入)  
◎正價五十錢  
◎郵稅六錢

當代の 人物の解剖  
◎正價五十錢  
◎郵稅六錢

桑谷 克堂著 (口繪肖像插入)  
◎正價五十錢  
◎郵稅六錢

成功 富豪の面影  
◎正價五十錢  
◎郵稅六錢

秘訣 富豪の面影  
◎正價五十錢  
◎郵稅六錢

實業之日本社編纂 (口繪肖像插入)  
◎特別減價  
◎郵稅共四拾錢

實業家人物評論  
◎特別減價  
◎郵稅共四拾錢

鈴木光次郎君著  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

現代 名流奇談  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

實業之日本社編纂  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

實業家奇聞錄

米國富豪カーネギー翁著小池靖一君譯  
◎正價卅五錢  
◎特別上製五拾錢  
◎郵稅六錢

米國富豪カーネギー翁著伊藤重治郎譯  
◎正價四拾錢  
◎特別上製五拾錢  
◎郵稅八錢

富の福音  
◎正價四拾錢  
◎特別上製五拾錢  
◎郵稅八錢

實業之日本社編纂  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

成功 錦囊  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

野田叱 電君著  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

成功 青年立身訓  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

岳 淵 生著  
◎正價卅五錢  
◎郵稅六錢

品性の光輝  
◎正價卅五錢  
◎郵稅六錢

正岡藝陽著  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

致富成業策  
◎正價參拾錢  
◎郵稅四錢

男爵 前島密先生序 兩君共著  
◎大版全一冊  
◎正價五拾錢  
◎郵稅八錢

國民 實業指針  
◎大版全一冊  
◎正價五拾錢  
◎郵稅八錢

中野 觀象君著  
◎洋裝金文字  
◎正價五拾五錢  
◎郵稅八錢

最新 外國商業地理  
◎洋裝金文字  
◎正價五拾五錢  
◎郵稅八錢

宮田 千年君著  
◎洋裝金文字  
◎正價六拾錢  
◎郵稅拾錢

世界 商業史綱  
◎洋裝金文字  
◎正價六拾錢  
◎郵稅拾錢

商業學士 小林行昌君著  
◎洋裝金文字  
◎正價四拾五錢  
◎郵稅八錢

英和 商用文教科書  
◎洋裝金文字  
◎正價四拾五錢  
◎郵稅八錢

渡邊 久太郎君著  
◎全一冊大版  
◎正價五拾錢  
◎郵稅八錢

最新 商品教科書  
◎全一冊大版  
◎正價五拾錢  
◎郵稅八錢

五十嵐 治郎君新著  
◎上製金文字  
◎正價八拾錢  
◎郵稅拾錢

最新 商業算術  
◎上製金文字  
◎正價八拾錢  
◎郵稅拾錢

水島 神戸高等商業學校校長序 竹内正太郎君著  
◎全一冊大版  
◎正價七拾錢  
◎郵稅八錢

商業簿記獨習書  
◎全一冊大版  
◎正價七拾錢  
◎郵稅八錢

村瀬 玄君竹内正太郎君共著  
◎全一冊大版  
◎正價三十錢  
◎郵稅六錢

最新 商業簿記  
◎全一冊大版  
◎正價三十錢  
◎郵稅六錢

日本石油會社會計課長 竹田常治君新著  
◎全一冊大版  
◎正價四拾錢  
◎郵稅六錢

實用 家計簿記  
◎全一冊大版  
◎正價四拾錢  
◎郵稅六錢

市吉 徹夫君著  
◎全一冊中版  
◎正價廿五錢  
◎郵稅四錢

地理と商品  
◎全一冊中版  
◎正價廿五錢  
◎郵稅四錢

土屋 長吉君新著  
◎全一冊  
◎定價卅五錢  
◎郵稅六錢

和洋 最新式簿記  
◎全一冊  
◎定價卅五錢  
◎郵稅六錢

權山 純一君著  
◎全一冊  
◎定價卅五錢  
◎郵稅六錢

英文 簿記例題  
◎全一冊  
◎定價二十錢  
◎郵稅貳錢



法學士 島村孝二郎君著

最新經濟學

◎並製九拾錢  
◎上製八拾錢  
◎郵稅各拾錢

小林 行昌君 共著  
土屋 長吉君

中等經濟學

◎正價四拾錢  
◎郵稅六錢

天野爲之君校閱 土屋長吉君著

應用經濟學

◎正價四拾錢  
◎郵稅六錢

中野 觀象君著

單式簿記法

◎正價卅五錢  
◎郵稅四錢

法學士 守屋源次郎君著

獨逸社會史

◎正價四拾錢  
◎郵稅六錢

報知新聞記者 篠田鐵造君著

小僧學問

◎補珍二十錢  
◎正價四拾錢  
◎郵稅六錢

土屋 長吉君著

最新商業要綱

◎並製七拾錢  
◎上製八拾五錢  
◎郵稅各拾錢

中野 觀象君著

商業書信文範

◎正價四拾錢  
◎郵稅八錢

高間 昭君著

最新珠算全書

◎正價卅五錢  
◎郵稅六錢

小林 行昌君 共著  
下平 精一君

英國商業實務

◎上製金文字八拾錢  
◎假製四拾錢  
◎郵稅拾錢

土屋 長吉君著

簡易商業學

◎上下二冊大版  
◎正價四拾錢  
◎郵稅八錢

土屋 長吉君著

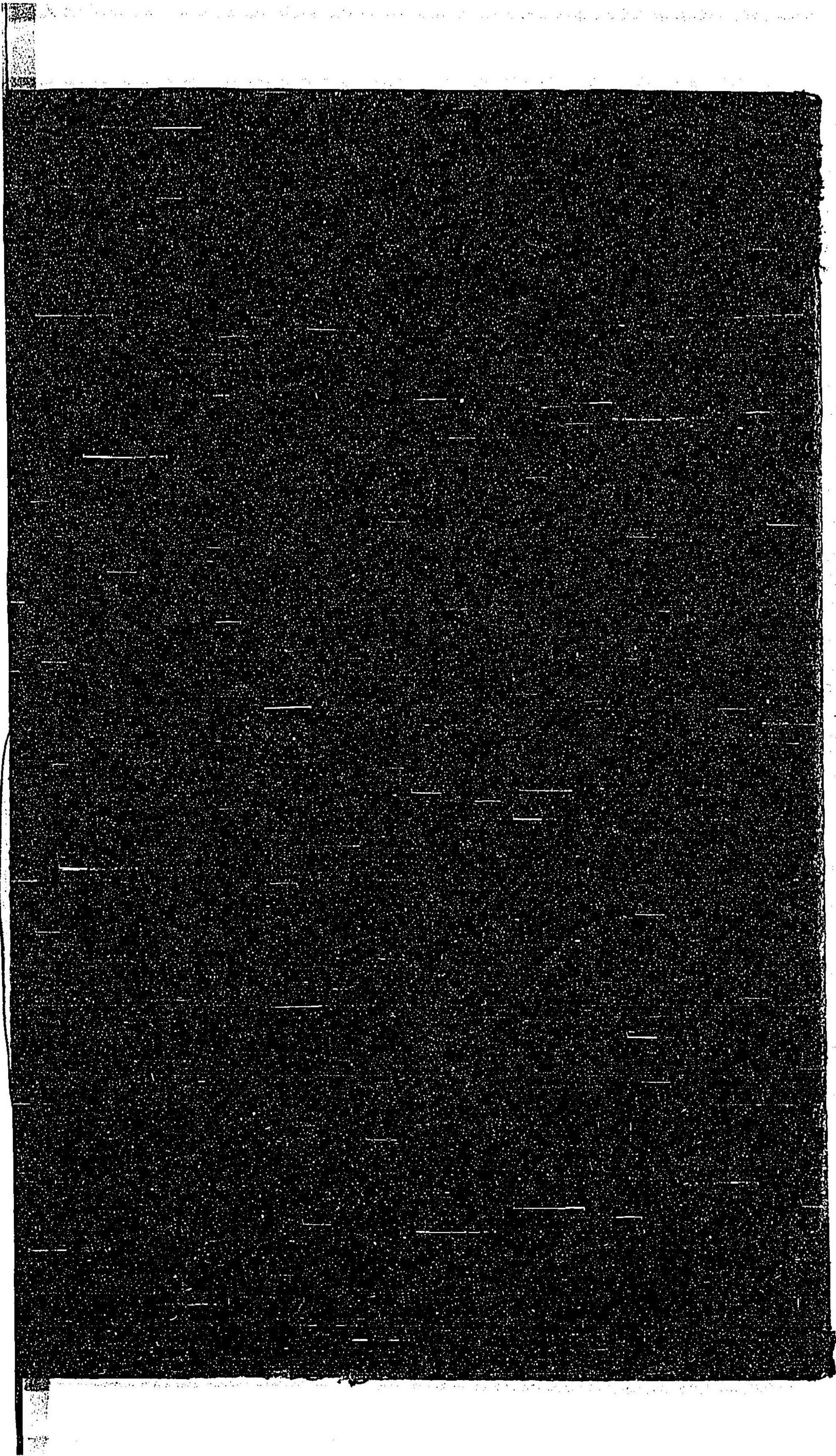
商家繁榮策

◎正價五拾錢  
◎郵稅六錢

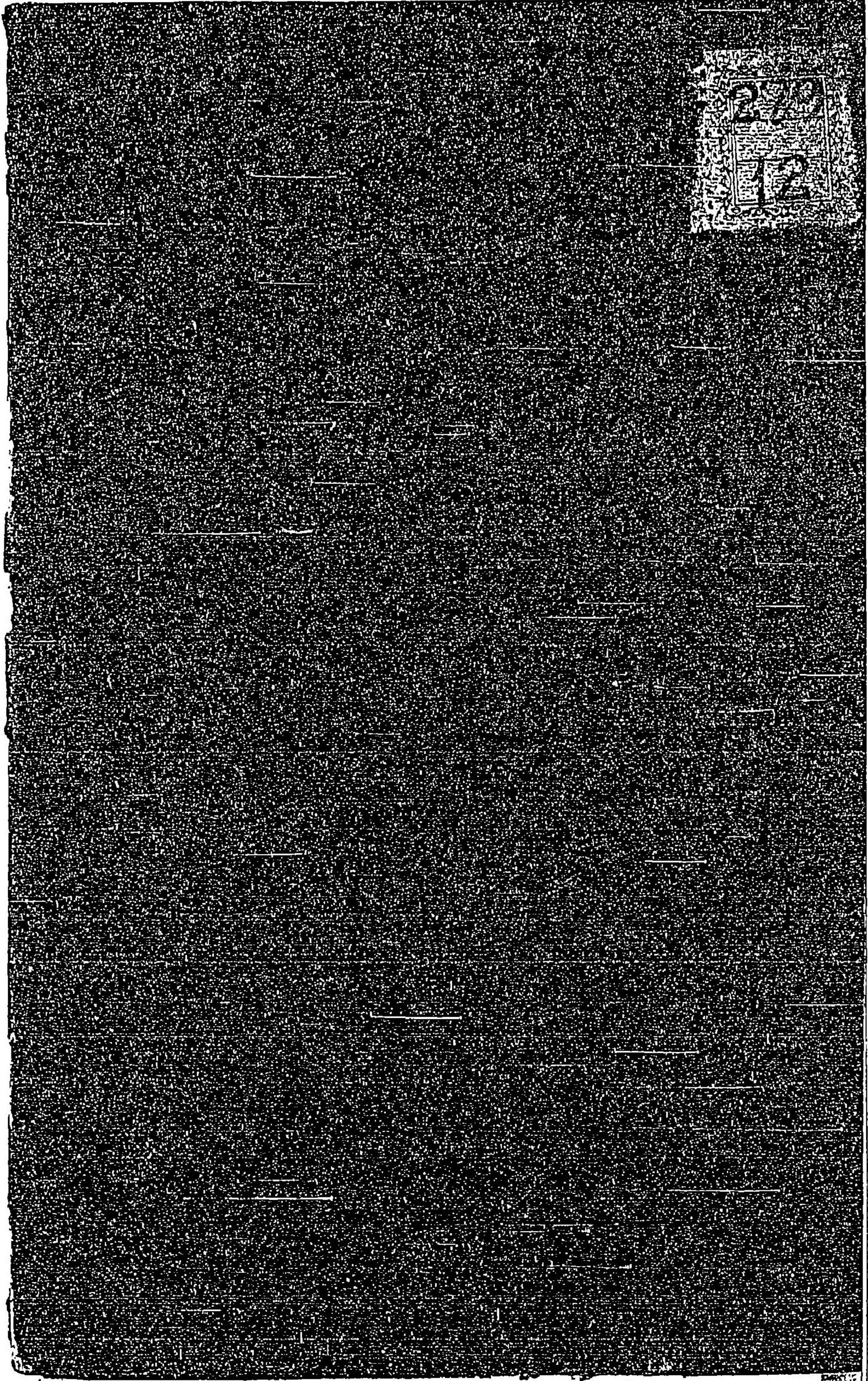


279  
12









101466-000-3

279-12

最新読書法

リチャードソン/著

M39

EAA-0010





